

歴史や生活踏まえ設計を 公共施設考える講演会

玉野

玉野市は9月9日、市民が集う交流する公共施設について考える講演会を市立図書館・中央公民館(同市宇野)で開いた。県立大デザイン学部建築学科の吉田豊教授を講師に招き、施設に必要なデザイン



市民や地域の交流施設について講演する県立大の吉田教授

インや機能について理解を深めた。

玉野市は2020年に老朽化した市民会館を廃止しており、新しい文化拠点施設を調査研究する一環。吉田教授は場所や環境を生かした建築が専門で、24年度には同市山田地区で実習を行った。

学生に、明治時代の旧専売局味野取納所山田出張所(国登録有形文化財)を地域交流センターとしてリデザイン

ンさせると、山や海など地区の魅力を生かした設計が集まったと説明。地域の歴史的背景や住民の生活を踏まえることが大切で「文化活動などのイベント以外でも、人が集まる空間づくりを進めてほしい」と呼びかけた。

柴田義朗市長との対談もあり、JR宇野駅周辺のまちづくりなどについて意見を交わした。柴田市長は「単に施設を建てるのではな

く、市民が日常的に使える拠点の必要性を感じる」と話した。

（黒瀬空）

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。